

## 平成 30 年度医療事業部第 3 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療地域事業部

日 時 平成 30 年 11 月 17 日 (土) 10 : 00 ~ 15 : 45

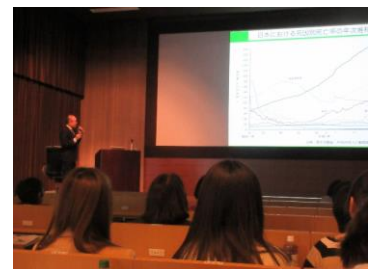
会 場 名 済生会熊本病院 外来がん治療センター 4 F コンベンションホール

### ◇内容

#### (1) 講義 講義 10:00~11:30 『胆道・膵臓の疾患について』

済生会熊本病院 外科部長 高森 啓史先生

午前中は高森先生に、胆道・膵臓の解剖生理とその疾患について講義をしていただきました。先生は「正常がわからなければ、異常はわからない。常日頃からこれらの正常な状態を知っておくことが大切である。」と話され、数多くの図やスライドを用いて胆道・膵臓の解剖生理をわかりやすく教えていただきました。疾患についても、済生会熊本病院で実際行われている閉塞性黄疸や胆道がん、膵臓がんなどの診断と治療について詳しく学ぶことが出来ました。がんは不治の病ではなく、6割の患者さんは治るとのことですが、胆道がん、膵臓がんは治療抵抗性が強く、特に膵臓がんは未だに難治がんであるとのことでした。がんと診断されたがん患者さんに対しては患者さん本人だけではなく、周囲の人々や社会全体が協力して病を乗り越えていくという考え、チーム医療の大切さについても教えていただきました。胆道、膵臓の疾患は食生活との関わりも強く、栄養士も栄養指導などで関わることの多い疾患です。先生のご講義は今後仕事をしていく上で大変勉強になりました。



#### (2) 講義講義・演習 12:30~15:30

#### 『8人に1人のCKD(慢性腎臓病)ー検診から透析まで最新のトピックスー』

済生会熊本病院 腎臓科医長 井上 浩伸先生

午後からは井上先生に、CKD(慢性腎臓病)について、講義・演習をしていただきました。講義前半はCKDの定義や診断、各ステージにおける治療法、さらに、糖尿病腎症の病態の特徴と治療法について講義をしていただきました。CKD治療には、寛解を目指す治療、進行を遅らせる治療、適切な時期での透析導入の3本柱があり、早期であれば完全寛解も期待できるとのことでした。この時期を見逃さず、ステージ早期から鑑別診断を行い、治療を始めることが非常に重要であると話されました。



講義後半は透析導入と治療方法の決定支援の大切さ、透析の実際と食事について知っておくべき基礎知識について講義をしていただきました。透析導入は患者さんにとって「第2の人生の岐路」ともいえるもので、透析導入に際しては治療方法の決定支援が重要であると話されました。済生会熊本病院ではSDM(患者と医療スタッフが意思決定には対等に目標を共有し、力を合わせて活動すること)の考えの下、療養選択シートを用いて治療法の決定支援を行っているとのことでした。

腹膜透析(PD)の導入にも力を注がれており、日本におけるPD選択率は6%と少ないのに対して、同院では総透析導入数の36.7%の方がPDを選択されているとのことでした。在宅医療が可能で、痛みや心負担がないPDをさらに強化するためには急性期病院と地域医療の連携強化が重要と話されました。

今回の研修会は、130名を超える参加者がありました。先生方にはお忙しい中、大変多くの資料をご用意いただき、わかりやすく講義をしていただきました。参加者からも質問が多数あり、活気ある研修会となりました。

講義をしていただきました高森先生、井上先生、大変お世話になりました。